

F-3 栄養との関連からみた食料費の研究—収入階級別について—(予報)  
福岡県社会保育短大 の出石康子 松田紀美子

目的 予報につぎ、収入階級別食料費の検討を行った。

方法 予報と同様の方法で、収入16階級別に、それぞれの階級の試算食料費を算出し、実態食料費および消費支出中の他費目の消費割合との比較、摂取栄養量の吟味なども加えて、収入階級別食料費の特長と概要をとらえた。また昭和40年から45年に至る時系列についてもそれらの検討を行った。

結果 1) 収入階級別食料費は、実態・試算両食料費とも階級の収入の増すにつれて順次大きくなり、実態食料費にその傾向が強か強く認められた。これは実態食料費の方には、栄養摂取量の増加による食料費増加という因子が強か強く作用するたのと考えられる。

2) 成分別平均単価については、熱量ではワーゲマンの法則がきれいに現われ、階級間の較差はきわめて小さかった。しかし蛋白質では階級間の較差が大きく、その原因は摂取食品の高級化によると考えられる。ビタミンB<sub>2</sub>、Cにもその傾向が強かった。

3) 時系列における収入階級別食料費では、実態・試算両食料費とも、全国平均の位置が収入の多い階級に移りつゝあるのが認められた。またこの階級別食料費の全国平均食料費に対する指数は、収入の低い階級では徐々に大きくなり、収入の多い階級は逆に小さい方に向つて、こゝにも平準化の傾向が認められたか、昭和45年に至つてやゝ異なつた傾向のきざしに気づいた。この点については、さらに詳しい検討を続けていく。